

8月の植物

エゴノキ (エゴノキ科)

学名 : *Styrax japonicus* Siebold et Zucc.

野山や公園でよく見かけるエゴノキ。花ざかりは5月。下から見上げるとほんのり甘い香りの中、たくさんの白い星のような花が降ってくるようだ。

花が終わり夏になると小さな卵のような実がぶら下がる。この実には弱い毒(サポニン)があり、人が嘔むとエグい味がするので「エゴノキ」。つぶすと泡立つことから昔は石鹼水としても利用されていたらしい。「つぶして川に流してウナギを捕まえていた」という話を馬渡島の方から聞いたことがある。

人にいろいろ利用されてきたエゴノキだが、昆虫や鳥にも人気だ。虫コブを作るのはエゴノネコアシアブラムシ、エゴタマバエ。エゴヒゲナガゾウムシやウシズラヒゲナガゾウムシは若い実に産卵し、熟した実はヤマガラの大好物。

自宅の庭のエゴノキにくるくる丸まった葉がある。作ったのは誰だろうと気になっていたら最近やっと判明した。エゴツルクビオトシブミ。エゴノキ1本につながっているたくさんの生き物に想いを馳せる。コロナ禍で今まで通りの夏とはいかないヒトだが、他の生き物はコロナなどどこ吹く風で今日も日々の営みに熱心だ。

(文責：神代智子)

